

令和4年度 当初予算 (案)

# 主な事業の説明書

企画部

・・・・・・・・・・目

次・・・・・・・・・・

款	項	目	大	事業	ページ
2	1	3	10	広報活動費	2 - 1
2	1	3	11	シティプロモーション戦略事業費	2 - 2
2	1	10	13	「ふるさと納税制度」関連経費	2 - 3
2	1	10	34	若者チャレンジ応援プロジェクト事業費	2 - 4
2	1	10	42	むすび・サポート事業費	2 - 5
2	1	10	43	国内友好都市交流事業費	2 - 6
2	1	11	14	地域交通対策事業費	2 - 7
2	1	11	23	移住・定住推進事業費	2 - 8
2	1	11	26	彩色千輪プロジェクト事業費（地域拠点利活用活性化事業）	2 - 9

※部毎に款・項・目・大事业の順番とする。

# 事 業 説 明 書

2 款 1 項 3 目 10 事業

(施策の大綱) 地域情報化の推進

(施策) 地域の情報発信の推進

(基本事業) 分かりやすく正確な行政情報等の伝達

継続

課所名： 企画部 広報広聴課

『事業名』 **広報活動費**

【R4年度】 **31,397** 千円 【R3年度】 **33,219** 千円 【増減額】 **△ 1,822** 千円

※R4年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
11			1,480	29,906

※市広報広告掲載料

**1. Plan (計画：事業の目的及び目標)**

- 【目的】 広報活動を推進し、市民の理解と信頼に基づく公正で開かれた市政の発展に資する。
- 【目標】 市広報紙の発行や、ホームページ、SNSなどのインターネット媒体、コミュニティFMの活用により、市民に対して市の施策・事業等に関する情報や市民が求めている情報を適時適切かつ分かりやすく提供する。

**2. Do (実行：これまでの実績と成果)**

- ・市広報紙は、「お便り広場」のコーナーに寄せられている感想や市民による市政評価の結果などから、訴求力のある写真を軸にした視覚に訴える紙面づくりが市民におおむね好意的に受けとめられており、市民の行政情報収集手段の主軸として確立しているものと捉えている。
- ・大雨災害時などには、状況に応じてホームページやSNS、コミュニティFMを活用し、避難情報などの即時発信を行っている。
- ・広聴業務としては、ホームページを通じた市民からの問い合わせや、広報紙面を使った「くらしの状況」アンケートを実施し、事務事業の見直しや改善に活かしている。

**3. Check (評価：問題と課題)**

発信媒体の特性を生かしながら、市民それぞれのライフスタイルにあった情報収集が可能となるよう引き続き内容の充実を図る必要がある。  
 災害時の避難情報などの発信に活用しているメディアを増やすなど、利用者が収集しやすい環境の整備に努めており、引き続き市民に対する収集方法の周知に努める必要がある。

**4. Act (改善：今後の方向性とR4年度事業の概要)**

【今後の方向性】

広報活動は、インターネット媒体を活用したホームページやSNSとコミュニティFMなど、それぞれの特性を生かした利用者が収集しやすいよう重層的な情報発信を推し進めるとともに、今後も見やすさ、わかりやすさなどに配慮した編集に努め、紙媒体では広報だいせん日和を月1回のペースで発行していく。  
 災害時の避難情報など、緊急時に備えた伝達方法を確立するため、市民に対し、市公式SNSの登録を呼びかける活動を今後も継続していく。  
 ホームページを利用して情報を発信している担当課と連携し利用者の立場に立ったページの作り方を検討していく。

【R4年度事業の概要】

- 広報だいせん日和の編集発行 21,553千円 (編集発行に係る302千円含む)
  - 毎月1日発行 平均30ページ (うち広告1ページ) 31,200部 カラー4色刷り
  - ※R3年度 平均32ページ (うち広告1ページ) 31,300部 カラー4色刷り
- コミュニティFM行政情報番組の放送 7,920千円
  - 番組の制作および放送の委託 行政情報番組として10分番組を3回/日 (平日のみ) 生放送中の原稿生読み (必要に応じて随時)
- 市ホームページ管理システム保守 1,650千円
- 広聴機能の強化 274千円

# 事業説明書

2 款 1 項 3 目 11 事業

(施策の大綱) 地域情報化の推進

(施策) 地域の情報発信の推進

(基本事業) 大仙らしさの創出とPR活動等の実施

継続

課所名： 企画部 広報広聴課

『事業名』 シティプロモーション戦略事業費

【R4年度】 6,169 千円 【R3年度】 2,211 千円 【増減額】 3,958 千円

※R4年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
			6,169	

※ふるさと応援基金

## 1. Plan (計画：事業の目的及び目標)

市民や企業などとの協働により、「大仙らしさ」「大仙の魅力」となる新たな価値を地域ブランド化するとともに、共有を図りながら市内外に効果的に訴求し、人、モノ、投資、情報などを呼び込み、効果的に循環させることで持続可能なまちづくりにつなげていく。

また、地域イメージのブランド化により、大仙市民としての誇りと地域への愛着を涵養するとともに、市内外から共感を得ることで大仙市へのあこがれを創出し、「大仙市に住んでよかった」「大仙市を訪れてよかった」との実感につながるような事業展開を目指す。

## 2. Do (実行：これまでの実績と成果)

市民や大仙ファンから自分が気に入っている大仙の写真を提供していただき、市の魅力や大仙らしさを市内外に広く知ってもらおうととともに、その写真からポスターなどを作成し市民の目に触れる機会を創り市民との協働により郷土愛の醸成に取り組んだ。

市民に参加を募ってワークショップを開催し魅力の見つけ方や効果的な発信の仕方を習得する機会を創り、地域を見つめなおすきっかけになる事業に取り組んだ。

## 3. Check (評価：問題と課題)

市民との協働により地域イメージのブランド化を図り、市民の市に対する愛着や郷土愛を醸成していくためには、市民や企業にも当事者意識を持ち、積極的に地域に関わってもらえるような環境の整備が必要である。

## 4. Act (改善：今後の方向性とR4年度事業の概要)

### 【今後の方向性】

大仙市の認知度を高めるため、引き続きさまざまな媒体を活用しPRの強化に努める。

また、市の魅力発掘や地域住民の愛郷心を醸成する事業に重点的に取り組み、住んでいる人が「大仙市で暮らすことの楽しさや良さ」を魅力として自分の言葉で話し、発信できる環境を整備する。

市民の自慢のひとつである「美味しいお米」を、米の生産販売に関わる企業や団体、市民との協働により『大仙市の誇り』としてPRしていく。

### 【R4年度事業の概要】

#### ■市のPR強化事業 5,891千円

- ①美味しいお米の産地大仙市PR 4,454千円
  - ・首都圏新聞等広告 (3,650千円)
  - ・PRフォトコンテスト (804千円)

#### ②SNSによる発信情報の拡充 990千円

- ・多言語情報発信事業 (495千円)
- ・LINE事業 LINE公式アカウントサーバ保守 (396千円)
- ・インスタグラム事業 (99千円)

#### ③看板等活用事業 447千円

- ・秋田空港電照看板を活用した市のPR事業

#### ■シビックプライドの醸成 278千円

- ・だいせん宣伝部 (248千円)
- ・ふるさとCM事業 (30千円)

# 事 業 説 明 書

2 款 1 項 10 目 13 事業

(施策の大綱)市民との協働

(施策)市民協働の推進

(基本事業)ふるさと納税による市出身者との協働等

見直し

課所名： 企画部 移住定住促進課

『事業名』 「ふるさと納税制度」 関連経費

【R4年度】 279,994 千円 【R3年度】 109,584 千円 【増減額】 170,410 千円

※R4年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
				<b>279,994</b>

1. P l a n (計画：事業の目的及び目標)

ふるさと納税制度の周知及び浸透を図り、大仙市をふるさととし、応援して下さる方々から広く寄附を募り、大仙市のPRの促進と寄附金の受入増を目指す。また、ふるさと納税制度を活用した地域経済の活性化のほか、大仙市を継続的に応援して下さる方々の増加を図る。

【目標】 寄附件数：20,000件・寄附金額：500,000千円

2. D o (実行：これまでの実績と成果)

- ・ふるさと納税制度運用開始以降、下表のとおり寄附件数、寄附金額ともに増加している。
- ・特に、H29年度以降は「大曲の花火」の観覧を中心とした1泊2日のおもてなしツアーや栈敷席などを返礼品に追加したほか、ふるさと納税受付サイトを追加したことに伴い増加している。

■ふるさと納税寄附受入実績 (単位：件・千円)

年度	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	合計
件数	50	45	43	36	46	49	55	85	105	473	2,410	5,602	6,666	15,665
金額	5,238	6,483	7,357	4,102	15,836	7,867	8,514	9,013	9,095	29,944	83,605	160,032	162,061	509,147

3. C h e c k (評価：問題と課題)

市内の地場産品を活用し、寄附者にとって魅力的な返礼品の開発や充実を図ることに加え、ふるさと納税の募集に要する経費を抑制することが課題である。

4. A c t (改善：今後の方向性とR4年度事業の概要)

《今後の方向性》

全国でも有数の米の産地として、米を返礼品とした寄附金額の増加につなげるため、米の返礼品のバリエーションを充実させるとともに、地場産品基準を満たす返礼品の掘り起こしなどを行い、さらなる寄附金額の増加を目指していく。

また、募集に係る各経費の見直しを行うなど、可能な限り事業費の圧縮に努める。

《R4年度事業の概要》

- ①【新規】ふるさと納税活用事業等の寄附者への報告
- ②【新規】寄附金税額控除に係る申告特例申請書(「ワンストップ特例申請書」)送付(寄附者→市)費用負担
- ③【新規】ふるさと納税受付サイトでの広告の実施 ※寄附が増加する10月から12月までの期間内を予定
- ④ふるさと納税の受付等に係る委託内容を見直すとともに、ふるさと納税受付サイトの運用・管理等業務委託業者を公募型プロポーザルにより選定

■予算内訳 (単位：千円)

科 目	内 容	予 算 額
10-5 印刷製本費	寄附金活用事業等の寄附者報告及びワンストップ 特例申請書送付(寄附者→市)封筒代	184
10-6 消耗品費等	返礼品一覧表及び寄附申込書等プリント用トナーカートリッジ	108
11-3 郵便料	ふるさと納税活用事業報告、ワンストップ 特例申請及び同申請受付書送付郵便料	1,680
11-6 広告料	ふるさと納税受付サイト(ふるさとチョイス・楽天)での広告料	1,800
12-1 委託料	《事務関連費用》ふるさと納税受付サイト利用及び寄附受領証明書発行等委託料 《決済等費用》クレジットカード等決済手数料 《返礼品調達費用及び返礼品送付費用》返礼品代及び送料	276,222

# 事業説明書

2款 1項 10目 34事業

(施策の大綱) 移住・定住の促進  
市民との協働

(施策) だいせんライフ(暮らし)のPR促進  
市民協働の推進

(基本事業) 移住・定住への支援の充実  
協働事業の促進

新規

課所名: 企画部 総合政策課

## 『事業名』 若者チャレンジ応援プロジェクト事業費

【R4年度】 9,459千円 【R3年度】 0千円 【増減額】 9,459千円

※R4年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
			4,000	5,459

### 1. Plan (計画: 事業の目的及び目標)

※大仙市ふるさと応援寄附金

様々な分野において夢や希望に向かってチャレンジする若者や、地域の課題解決・活性化のため行動を起こそうとする若者を総合的にサポートする仕組み・体制を構築するなど、地域全体で若者を応援する土壌づくりを進め、チャレンジが連鎖する持続的な好循環を生み出し、地域の元気創出や市内定着、ふるさと回帰の促進による持続可能な地域づくりに結びつけるとともに、若者の創意あふれる発想と熱意ある行動を原動力に、コロナ禍をきっかけに進む社会変革をチャンスに変え、本市の持続的な成長につなげていくことを目的とする。

### 2. Do (実行: これまでの実績と成果)

- 市ではこれまで、地域枠予算などを通じて若い世代のまちづくりへの興味や関心を高め、地域の課題解決や活性化への取組を促進してきた。こうした取組が実を結ぶ形で積極的な活動事例が各地で生まれている。
- 一方で、依然として20代を中心に転出超過の流れが続いており、近年は女性の転出者数が男性を上回って推移している。市では、こうした状況を打開する手立てとして、第2期総合戦略の重点施策の一つに「移住・定住の促進と若者がチャレンジできる環境づくり」を掲げ、夢や希望に向かってチャレンジする若者を地域全体で応援する地域づくりを進めることとしている。
- こうした取組を具体化するため、今年度「若者チャレンジ」に関する調査を実施しており、多様な主体が集まる場の創出や、知識や資金、情報など総合的なサポートが必要とされていることが明らかとなっている。

### 3. Check (評価: 問題と課題)

### 4. Act (改善: 今後の方向性とR4年度事業の概要)

CF: クラウド・ファンディング  
GCF: ガバメント・クラウドファンディング

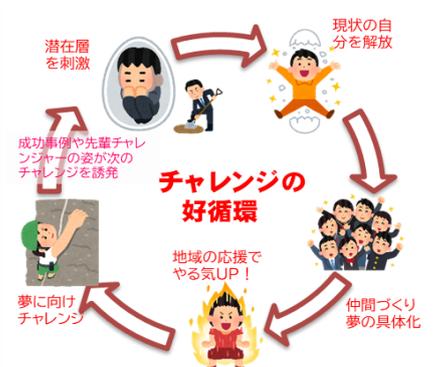
#### ■若者チャレンジ応援補助金 6,460千円

チャレンジタイプ、課題解決タイプ、ユースチャレンジタイプの3類型により支援。

財源は、透明性や持続性、実効性の担保に加え、自立のかつ主体的な取組を促すため、CFやGCF、寄附等の活用を予定しており、優れた取組については市の上乗せ補助を行う。



類型	チャレンジタイプ	課題解決タイプ	ユースチャレンジタイプ
	起業やプロフェッショナルへの夢、趣味を活かしたイベント開催等を応援	自ら定義した、あるいは市が提示した課題の解決に向けたコミュニティビジネスやソーシャルビジネスを応援	チャレンジタイプや、課題解決タイプに準じた中高生・学生の取組を応援
支援内容	「ふるさと起業家支援プロジェクト(総務省)」を活用したGCF 目標調達額200万円+上乗せ補助(上限100万円) 最大300万円×1件		補助金交付 上限20万円×3件
	GCF(上記以外) 目標調達額 最大200万円×1件		
	CF補助 調達額(想定100万円)×20% 最大20万円×2件		
上記に加え、企業版ふるさと納税や一般寄附も受け付け			



#### ■(仮)「だいせんLabo」運営費 2,999千円

市内外の企業や学生、金融機関、商工団体、地域おこし協力隊など多様な主体の参画のもと、「人」や「組織」「情報」をつなぐハブ機能を担う特定の枠組みにとらわれない組織体として「だいせんLabo」を市内民間シェアオフィス内に開設。

各主体が有するリソースを活用し、仲間づくりや資金調達など若者のチャレンジを総合的にサポートするとともに、オープンラボとしてローカルイノベーションを推進していく。



# 事 業 説 明 書

2 款 1 項 10 目 42 事業

(施策の大綱) 出会い・結婚・子育ての充実

(施策) 出会い・結婚の促進

(基本事業) 地域全体で結婚を応援する仕組みづくり

拡充

課所名： 企画部 総合政策課

『事業名』 **むすび・サポート事業費**

【R4年度】 13,332 千円 【R3年度】 8,474 千円 【増減額】 4,858 千円

※R4年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
	7,000			6,332

1. P l a n (計画：事業の目的及び目標)

結婚を望んでいるにもかかわらず出会いの機会に恵まれない方を対象に、出会いの場の創出やマッチングを促進するとともに、結婚祝い金の交付や結婚に伴う新生活のスタートアップ支援など、様々な理由で結婚をためらっているカップルの背中を後押しするような取組を進める。あわせて、地域や職場など地域社会全体で結婚を希望する方々を応援する機運の醸成を図りながら、それぞれのライフデザインに応じた希望がかなえられるような環境整備を進め、婚姻数の増加につなげていく。

2. D o (実行：これまでの実績と成果)

令和元年に設置した「子育て支援制度等検討会議」において、結婚から出産、子育てまで切れ目のない支援制度構築の一環として制度体系を抜本的に見直し、令和2年度に本制度をスタートした。そのうち結婚新生活支援事業については、対象者全員から結婚に伴う経済的負担の軽減に役立ったとの評価をいただいております。婚姻数の増加と若者の定住に一定の役割を果たしているものと捉えています。

■令和2年度実績 結婚祝い金 165組 1,650千円(うち当該年度の換金額 921千円)  
結婚新生活支援事業 18組 4,550千円

3. C h e c k (評価：問題と課題)

- 少子化の一因である婚姻数の減少が続く中であって、令和3年度に実施した市政評価では「出会い・結婚」の満足度が29項目中25位となっている。令和2年度に制度対象者等に行ったアンケートでは、制度自体を知らなかったとの回答が多く、支援制度の効果的な周知が課題となっている。
- 出会い・結婚応援イベント助成金については、令和2年度に対象を民間事業所に拡大したが、コロナ禍でイベントを中止せざるを得ないケースが生じるなど、出会いの場の創出そのものが難しい状況にあり、ウィズコロナを念頭に置いた効果的なイベント内容を検討していく必要がある。
- 結婚新生活支援事業については、実施団体が全国的に増加傾向にある一方で、国の予算が十分確保されず、要望額を大きく下回る内示となるなど地方負担の増加が課題となっており、引き続き、必要な予算が確保されるよう国に対して要望していく必要がある。

4. A c t (改善：今後の方向性とR4年度事業の概要)

【今後の方向性】

出会いや結婚を希望する方のニーズや社会動向の把握、財源の確保に努めながら、利用しやすい制度となるよう見直しや改善を進めるとともに、県が実施するマッチング事業などへのサポートを継続して実施する。また、引き続きパンフレットを配布するほか、広報やホームページ、SNSを活用して定期的に案内を行うなど、制度の周知に努める。

【R4年度事業の概要】

- ①結婚祝い金事業 … 1,963千円  
大仙市に住所を有する婚姻世帯1組に対し10,000円の大仙市地域商品券を交付する。  
申請期間、住民登録の要件を緩和【拡充】
- ②結婚新生活支援事業(内閣府「地域少子化対策重点推進交付金事業」) … 10,523千円  
対象世帯…大仙市に住所を有し、婚姻日における夫婦双方の年齢が39歳以下かつ世帯所得が400万円未満の世帯  
補助対象…婚姻に伴う住宅取得費用、住宅リフォーム費用、住宅賃借費用、引越費用  
補助上限額…夫婦ともに29歳以下の世帯：1世帯あたり最大60万円※【拡充】  
上記以外の世帯：1世帯あたり最大30万円  
※都道府県主導型市町村連携コースに採択された場合。不採択の場合は最大30万円。
- ③出会い・結婚応援イベント助成金 …150千円  
出会いの場の創出や結婚を促進するイベントを行う団体等に対し15万円を上限※に助成。【拡充】  
※趣味やスポーツ、アウトドアをテーマとしたイベント、ウィズコロナを念頭に置いたオンラインイベントなど、より高いマッチング効果が見込まれるイベントが拡充の対象。
- ④あきた結婚支援センター入会登録料助成金 …370千円  
同センターへの入会登録料10,000円を本人に代わって市がセンターに支出する。(登録期間2年)
- ⑤あきた結婚支援センター運営費負担金 …326千円  
県、県内市町村、民間団体が共同で設置している同センターの運営費の一部を負担する。

# 事業説明書

2 款 1 項 10 目 43 事業

(施策の大綱)地域間交流・国際交流の推進

(施策)協働による地域間交流・国際交流の推進

(基本事業)地域間ネットワークの積極的な活用

継続

課所名：企画部 交流振興課

## 『事業名』 国内友好都市交流事業費

【R4年度】 12,374 千円 【R3年度】 15,845 千円 【増減額】 △ 3,471 千円

### ※R4年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
			12,374	

※地域振興基金繰入金 11,624  
 ※宮崎市交流事業負担金 750

### 1. Plan (計画：事業の目的及び目標)

友好交流都市協定を締結している神奈川県座間市及び岩手県宮古市、有縁交流提携を調印している宮崎県宮崎市との交流・連携を図り、相互に発展することを目指す。

### 2. Do (実行：これまでの実績と成果)

#### ■神奈川県座間市【友好交流協定締結 平成27年(2015年)3月21日】

事業名	開始年度	交流回数	主な交流内容
青少年交流(受入・派遣)	H26	受入4回	座間市ジュニア・リーグズクラブと本市青少年が餅つき・模擬花火玉作り体験等の交流を行った
	R1	派遣1回	両市スポ少野球選抜チームが交流試合(2試合)を行った
市民団体交流(受入・派遣)	H28	受入4回	防災団体、吹奏楽団体等が交流を行った(交流した団体を翌年度に派遣)
	H29	派遣3回	婦人会、防災団体等が交流を行った(前年度に交流した団体を派遣)

#### ■岩手県宮古市【友好交流協定締結 令和元年(2019年)10月5日】

事業名	開始年度	交流回数	主な交流内容
市民招待(受入)	H30	2回※	宮古市の子育て世帯を大曲の花火に招待し花火を鑑賞していただいた

※H23年度からH29年度までは「大曲の花火」への東日本大震災の被災者招待事業として、被災者を招待していたもの

#### ■宮崎県宮崎市【有縁交流提携調印 平成13年(2001年)6月3日】

事業名	開始年度	交流回数	主な交流内容
青少年交流(受入・派遣)	H9	受入4回	ホームステイ・スキー体験・萬松寺へ墓参等の交流を行った
	H8	派遣5回	ホームステイ・サーフィン体験等の交流を行った

※R3年度(11月)に、提携20周年記念式典が宮崎市で開催され、市長・議長・議員3名等、計10名が参加した

■上記の他、それぞれの市の祭り・イベントへの参加や花火の打ち上げ等により本市をPRしている

### 3. Check (評価：問題と課題)

- ・交流事業実施による効果を市民に伝える取り組みを進める必要がある。
- ・民間団体による自主的な相互交流に繋がる取り組みを進めていく必要がある。

### 4. Act (改善：今後の方向性とR4年度事業の概要)

#### 【今後の方向性】

各都市との協定等に則し、文化、スポーツ、教育及び経済など幅広い分野での持続的な交流を促進するとともに、今後も相互の発展に寄与する交流事業を各部署と連携して実施する。

#### 【主な事業概要】

#### ■神奈川県座間市との交流 (予算額 2,091 千円)

事業名	内容	時期(予定)
青少年交流(受入)	座間市のスポ少野球チームが、市内のスポ少野球チームと試合等とおした交流を実施	10月

その他：大風まつり等での花火打上、座間市民ふるさとまつりでの物産販売の実施

#### ■岩手県宮古市との交流 (予算額 3,830 千円)

事業名	内容	時期(予定)
大仙市民招待(本州最東端・宮古の海)	市内の小学生と保護者が宮古市を訪問し、様々な宮古の海を体験	8月
宮古市民招待(大曲の花火)	子育て世代の宮古市民を招待し、大曲の花火の鑑賞のほかはなび・アムの見学等を実施	8月

その他：産業まつりでの花火打上、物産販売の実施、協定締結記念碑建立除幕式の実施

#### ■宮崎県宮崎市との交流 (予算額 5,796 千円)

事業名	内容	時期(予定)
青少年交流(派遣)	市内中学生が宮崎市の中学生宅へのホームステイやサーフィン体験を実施	夏季
プロ野球宮崎キャンプ体験	市内中学生が宮崎市で行われるプロ野球キャンプの見学等を実施	2月

その他：神宮大祭のパレード等の参加、一ツ瀬川花火大会での花火打上等の実施

#### ■その他の事業 (予算額 657 千円)

交流都市産品販売促進事業、各都市紹介展示及び新規事業として、民間団体の自主的な相互交流を促す交流促進事業費補助金

# 事業説明書

2 款 1 項 11 目 14 事業

(施策の大綱)公共交通の整備

(施策)地域公共交通の維持

(基本事業)地域拠点を核とした地域内支線の導入

継続

課所名：企画部 地域活動応援課

『事業名』 地域交通対策事業費

【R4年度】 137,195 千円 【R3年度】 104,929 千円 【増減額】 32,266 千円

※R4年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
9,000	10,860		265	117,070

※市町村有償運送使用料 ほか

## 1. Plan (計画：事業の目的及び目標)

第4期交通計画に基づき、市民の「利用しやすさ」「暮らしやすさ」を軸とした公共交通ネットワークの形成を目指す。

【目標】市交通システム利用者数 79,800人 (R2年度実績 60,317人)

## 2. Do (実行：これまでの実績と成果)

- ・地域間をつなぐ幹線として路線バスを維持しながら、これに連結する地域内の支線としてコミュニティバスや乗合タクシー等を市が実施することで、市民の足となる交通網の整備に努めてきた。
- ・地域公共交通の再構築の中で、アンケート調査等により地域のニーズを把握し、運行内容の改善を行うとともに、高齢者等を対象とした助成事業の実施により利用促進が図られており、令和3年度の「市民による市政評価」では、満足度が向上した。

【R2実績】循環バス11,277人、コミュニティバス34,450人、乗合タクシー13,129人、市民バス1,460人

## 3. Check (評価：問題と課題)

- ・路線バスにおける利用者数の減少が続いており、代替交通の検討が必要になると考えられる。
- ・自宅付近への送迎に対するニーズが高まっており、乗合タクシーの運行内容見直しは課題である。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大により外出を控える傾向が強く、公共交通の利用者数が減少している。
- ・路線バス廃止による代替交通の実施や地域内支線の運行のほか、高齢者等の移動支援として助成事業の実施により経費が増加傾向にあるため、財源の確保が課題である。

## 4. Act (改善：今後の方向性とR4年度事業の概要)

### 【今後の方向性】

第4期交通計画に基づき、交通弱者をはじめとした市民の移動手段を確保するため、各地域の実情に合わせた交通システムの運行と移動支援策を実施するとともに、引き続き事業の検証と改善を行う。

### 【事業概要】

- ①コミュニティバスの運行 45,471千円 (利用料金200～700円 (100円刻み))  
市が実施主体となり、羽後交通が運行主体となる長信田線、杉山田線、南外線の運行を実施。
- ②循環バスの運行 10,510千円 (利用料金200円)  
中心市街地及び周辺の公共施設を順・逆回りの2ルートで5便ずつ運行。
- ③乗合タクシーの運行 14,793千円 (利用料金500円 (乗合時400円))  
大曲、中仙、協和、仙北、太田地域で実施。路線や時刻を定め、予約制で運行。
- ④乗合タクシードアツードア型の運行 4,295千円 (利用料金700円)  
神岡、西仙北、南外地域で運行。自宅付近から乗降可能。R3年4月から本格運行。
- ⑤市民バスの運行 2,320千円 (利用料金200円)  
市町村有償運送により、市が自ら実施するもの。西仙北、南外地域で運行。
- ⑥乗合自動車利用助成の実施 2,760千円 (利用料金300円)  
タクシー会社が独自に実施。中仙で5路線を運行。運賃の内、300円を超えた額を助成。
- ⑦のりきつぷ 56,168千円  
75歳以上の方または免許返納者のうち希望する方に対し、バスやタクシー等で使用できる助成券を交付。R4年度は、コロナ禍における移動支援として交付額を1,000円増額し、高齢者、免許返納者それぞれ6,000円とする。
- ⑧その他経費 878千円  
大仙市地域公共交通活性化再生協議会負担金、停留所等の維持管理費等、公共交通システム運行に係る諸経費。

# 事業説明書

2 款 1 項 11 目 23 事業

(施策の大綱) 移住・定住の促進

(施策) 「だいせんライフ(暮らし)」のPR促進

(基本事業) 移住・定住への支援の充実

継続

課所名： 企画部 移住定住促進課

## 『事業名』 移住・定住推進事業費

【R4年度】 16,445 千円 【R3年度】 21,435 千円 【増減額】 △ 4,990 千円

※R4年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
	2,400	7,000		7,045

### 1. Plan (計画：事業の目的及び目標)

「花火のまち大仙市」移住・定住促進アクションプランに基づき、仕事や住まいに関する支援、情報発信の強化及び移住潜在層の創出などを行うことで、大仙市人口ビジョンに掲げる目指すべき将来人口を達成できるように移住者数を増加させることを目的とする。

【目標】R4年度の移住者数 649 人

### 2. Do (実行：これまでの実績と成果)

- 本市への移住・定住促進に関する具体的な行動計画として、平成29年3月に第1期プランを策定し、様々な取組を実施した。
- 第1期プランに基づく取組による成果があった一方、様々な課題も顕在化したことから、新たな視点を取り入れながら実効性のある取組を進めるため、令和2年度から令和4年度までの3年間を計画期間とする第2期プランを令和2年3月に策定した。

#### ■移住者数の目標と実績

年度 区分	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3 (12月末)
目標	4人	4人	4人	4人	4人	649人	649人
実績	8人	13人	47人	76人	66人	405人	263人

※目標について、H27～R1は「大仙市まち・ひと・しごと創生総合戦略」、R2は「第2期プラン」より。

※移住者の定義について、H27～R1は「NPO法人秋田県移住定住総合支援センターに登録をして本市に移住した方」と「市の移住支援制度を活用した方」の合計とし、R2は「本市に5年以上居住する意思がある方」としている。

### 3. Check (評価：問題と課題)

新型コロナウイルス感染症の拡大を契機にライフスタイルや働き方などに対する意識に変化が生じていることから、ウィズコロナ、アフターコロナを見据えたプランを策定する必要がある。

### 4. Act (改善：今後の方向性とR4年度事業の概要)

《今後の方向性》

- ウィズコロナ、アフターコロナを見据えた第3期プランを策定する。
- オンラインとリアルの両方の移住相談・移住体験等に対応できる体制を整備する。

《R4年度事業の概要》

#### ①仕事に関する支援【7,745千円】

- 移住コーディネーターと移住者向け無料職業紹介所による就業支援
- 秋田県と県内市町村が共同で実施している移住・就業支援
- 無料職業紹介所から市内企業の紹介を受けた県外在住者が市内面接地までに要した交通費(往復)支援

#### ②住まいに関する支援【6,850千円】

- 県外からの移住者に対する住宅取得費、若者・子育て世帯家賃及び引越代金の支援
- 市内宅建業者との協定に基づく移住希望者向けの住まいの情報提供

#### ③情報の発信【685千円】

- オンライン移住体験ツアーの実施及び首都圏での移住相談会等によるPR

#### ④日常生活体験・持続可能な地域づくり【1,102千円】

- 移住希望者の要望にあわせて企画するオーダーメイド型の移住体験に加え、グリーンツーリズム団体や先輩移住者が所属する団体と連携した企画型の移住体験の実施

#### ⑤第3期プランの策定【63千円】

- 社会情勢の変化に対応し、新たな視点を取り入れた取組を進めるため、第3期プランを策定する。

# 事 業 説 明 書

2 款 1 項 11 目 26 事業

(施策の大綱)市民との協働

(施策)市民協働の推進

(基本事業)協働事業の促進

新規

課所名： 企画部 地域活動応援課

『事業名』 彩色千輪プロジェクト事業費（地域拠点利活用活性化事業）

【R4年度】 1,252 千円 【R3年度】 0 千円 【増減額】 1,252 千円

※R4年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
				1,252

1. P l a n （計画：事業の目的及び目標）

平成28年度から各地域がそれぞれ特色を活かした「地域の魅力再発見事業」を展開し、市民協働による地域づくりの推進や地域コミュニティの活性化を図ってきた。令和4年度からは地域住民と行政が一緒になり、地域の課題を把握するとともに、その解決策を検討し、具体的な取組を実施する上で、拠点となる施設を選定し、これを活用した活性化策を実施することで、各地域の活性化を図り、市全体の活性化に結びつける。

※彩色千輪：8地域それぞれが活性化することで市全体の活性化につなげることを花火でイメージしたもの。

2. D o （実行：これまでの実績と成果）

3. C h e c k （評価：問題と課題）

4. A c t （改善：今後の方向性とR4年度事業の概要）

【事業概要】

各地域において全体構想を策定し、活性化の方向性や目標を定めて、拠点を活用した地域活性化策を実施する。

【単位：千円】

No.	地域名	拠点名	事業内容	予算額
1	大曲	花火伝統文化継承資料館 「はなび・アム」	はなび・アムとその周辺施設の活用、連携による構想策定	0
2	神岡	道の駅かみおか	道の駅の再整備及び利用促進のための基本方針策定	0
3	西仙北	大綱交流館	地域団体や市内外の学生等によるワークショップを実施し、意見を基に構想策定	352
4	中仙	道の駅なかせん	道の駅の特徴づくりと「ドンパン娘」の商標登録を見据えたイラスト等の制作	900
5	協和	協和市民センター「和ピア」	施設内に子どもの遊び場機能の追加など多世代が活用できる構想策定	0
6	南外	南外ふるさと館、南外民俗資料館、南外さいかい市	自立してコンパクトな、子どもからお年寄りまで元気で安心な、自然豊かで人が集える構想策定	0
7	仙北	仙北ふれあい文化センター (仙北ふれあい公園)	公民連携による地域の活性化と子育て支援施設・サービス拡大等を推進する構想策定	0
8	太田	横沢公園エリア	「花と緑のまち」を体感することができる公園機能の強化を図る構想策定	0
※地域活性化策を実施する上で必要な拠点施設の改修事業費等は、目的別に予算措置。				合計 1,252

【スケジュール】

令和3年度 地域拠点の選定、活性化策の方向性の検討（実施済み）

令和4年度 事業の全体構想策定、活性化事業の実施

令和5年度 活性化事業の実施、必要に応じて地域拠点の改修等

令和6年度 活性化事業の継続と地域拠点改修後の新たな活性化事業の実施 等

※毎年度、事業の進捗状況とその後の方向性の確認を行う。

No.	地域	拠点施設	活性化の方向性	R 4 事業概要	R 4 予算（関連事業含む）※					
					予算科目 事業	個別事業名	実施担当課	内容	予算額	うち 特財
1	大曲	はなび・アム	①はなび・アムの利用促進につなげるため、現在実施している取り組みの変更、追加やアーカイブズ機能を活用したサービス展開のほか、駐車場を活用した事業などを検討実施する。 ②周辺施設、商店街と連携した事業を実施し、一体的な賑わい創出を図る	①地域協議会で議題として継続審議 ②関係団体、部署との調整を図る ③全体構想を策定する						
2	神岡	道の駅 かみおか	①施設（駐車場を含む）の再整備を行い、施設の利便性の向上を図る ②地域資源を活用した特産品開発等により、商品の充実を図り、利用者及び売上の増加に繋げる	①地域協議会で議題として継続審議 ②関係機関、部署等との調整 ③先進事例、利用者ニーズ等の調査 ④施設再整備の基本方針を策定						
3	西仙北	大綱交流館	①大綱交流館とその周辺区域における活性化策を検討実施 ②ふるさと教育など地域愛の醸成を図る ③まちづくりのための若者参画を推進し、地域団体と連携した地域活性化を図る	①地域協議会で議題として継続審議 ②関係団体との調整を図る ③全体構想を策定する	2.1.11.26 彩色千輪プロジェクト	まちづくり 若者参画事業	地域活性化 推進室	若い世代、地域団体がまちづくりに関わる仕組みづくりを行う	352	
4	中仙	道の駅 なかせん	①道の駅なかせんが『人が訪れ、人が集う「楽しい」「美味しい」があふれる観光と交流の拠点』となることを目指す ②これを実現するため、次の5つの柱を掲げ、関係部署、各種団体、地域住民との協働による様々な事業と施設整備を実施していく 1. 地域の特色が詰まった、ここにしかない道の駅に 2. 美味しいものが買える、食べられる美食の道の駅に 3. 寄ってみたい、いつでも行きたい魅力あふれる道の駅に 4. 結びつき、交流が生まれる道の駅に 5. 地域に愛される住民誇りの道の駅に	①道の駅利用者や市民から多くの改善要望が寄せられている駐車場について、機能改善を図る取り組みを実施 ②地域の特色を活かした限定商品の開発や観光誘客を推進し、広く地域をPRするとともに、郷土愛の醸成と地域文化への理解増進を図る ③事業推進と進捗管理を目的に、関係部署、各種団体、地域住民による推進会議を設置する	7.1.4.38 彩色千輪プロジェクト	道の駅なかせん植 樹帯再整備事業	市民サービ ス課	道の駅敷地内国道端緑地帯の樹木伐採及び盛土整地を行い、国道からの駐車場や建物への見通しを改善するとともに、花壇やプランターを設置し敷地外観の美化を図る	3,465	
					2.1.11.26 彩色千輪プロジェクト	ドンパン娘シンボ ルキャラクター・ ロゴ制作事業	地域活性化 推進室	「ドンパン娘」のブランド化と商標登録を目指し、様々な商品へ活用できるキャラクター、ロゴ制作を秋田公立美術大学の産学官連携事業により業務委託して実施	900	
5	協和	協和市民 センター 和ピア	①「和ピア」のアクセスの良さ、集客能力の高さなど立地を活かし、周辺施設を活用した基本構想を策定する ②地域の若者や子育て世代を中心とした食育や健康増進につながる取り組みを検討する	①地域協議会で議題として継続審議 ②関係団体、部署との調整を図る ③全体構想を策定する						
6	南外	南外ふるさと館 南外民俗資料館 南外さいかい市	①NPO法人南外さいかい市等の関係団体との連携を深め、3施設の魅力と集客力の向上を図る ②拠点のイメージを3施設がある外小友地区に固定化せず、地域全体を盛り上げられるような取り組みを進めていく	①地域協議会で議題として継続審議 ②関係団体、部署との調整を図る ③全体構想を策定する						
7	仙北	仙北ふれあい 文化センター (仙北ふれあい 公園)	①公民連携によるエリアの利便性向上と賑わい創出に向けた取り組みについて、マーケットサウンディング調査等を実施し、事業の有効性を検証する ②既存施設の利活用（ソフト事業の展開）によるさらなる利用率の向上と、子育て支援施設の設置及びサービスの拡大について、公民連携や用途変更等により対応を検討する	①地域協議会で議題として審議 ②関係部署、団体等との調整を図る ③全体構想を策定する						
8	太田	横沢公園 エリア	①平成14年度の整備完了から約20年経過しており、施設の老朽化や花の生育状況も悪くなっていることから大規模改修に取り組む ②他事業により整備が計画されている「真木真屋県立自然公園エリア」と集客ターゲットを区分した整備を行う	①地域住民・関係団体と利活用検討会を開催 ②県内主要公園の視察 ③スイセン園・菖蒲園の生育調査 ④公園利用者へのアンケート調査 ⑤全体構想の策定	8.7.1.10 公園維持管理	基幹公園整備事業	中仙・太田 建設水道事 務所	修景池堆積土撤去、連絡橋修繕、魚類・植物調査、樹木剪定	3,818	
					都市管理課においては、彩色千輪プロジェクトとは別に、「横沢公園」を太田地域の拠点公園として、さらには東部（中仙・太田）地区の基幹公園として整備する。					

※施設に係る業務委託、普通建設に係る経費など投資的経費（毎年かかる経費は除く）